

テスへの手紙2章13節 「祝福された望み」

1A 栄光の現れ

1B 高い山での変貌

2B 天から降りて来られる方

2A 二つの来臨

1B 苦しみの後の栄光

2B 霊と体の救い

3B 御霊の初穂と収穫

3A 大いなる神、救い主

1B 父と一つの御座

2B 神ご自身の栄光

4A 待ち望み

1B 労苦の報い

2B 清め

本文

テスへの手紙 2 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、テスへの手紙の 1 章まで来ました。午後に 2 章を一節ずつ見て行きます。今朝は、13 節に注目します。「**祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように教えています。**」パウロは、望みのことを「祝福された望み」と言い表しています。イエス様が再び、栄光ある姿で戻って来てくださる、その現れが、祝福された望みです。その現れを積極的に待ち望むように、パウロは教えています。

人が生きるのに、望みは空気のように、あるいは水のように必要であると言われています。ある実験が行われました。ネズミを水槽の中に入れたら、どれだけ生きて行けるのか？という実験です。平均すると 15 分間です。けれども、疲れて泳げなくなり溺れ死んでしまう直前に、ねずみを引き出して、乾かして、数分休ませます。それで、再び水槽に入れます。この二回目で何分間生き延びられるか？を実験しました。なっ、なんと 60 時間も、生きられたのです！そうです、自分が生き残れるという希望があれば、そのねずみは文字通り、長く生きることができます。

パウロは、「いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。」と言いました（I コリ 13:13）。キリスト者は、愛と信仰によって生きるだけでなく、希望によってこの地上で生きて行くことができます。

1A 栄光の現れ

1B 高い山での変貌

イエス様は、地上におられる時に、ご自分の栄光ある姿に変わったことがありました。「マル 9:2-3 それから六日目に、イエスはペテロとヤコブとヨハネだけを連れて、高い山に登られた。すると、彼らの目の前でその御姿が変わった。その衣は非常に白く輝き、この世の職人には、とてもなし得ないほどの白さであった。」主は神なのに、人の姿を取られ、身を低くされました。しかし、それは神ではなくなったということではなく、神であるにもかかわらず、肉体を取られたのです。御子としての栄光を、高い山で少しだけお見せになったのです。

2B 天から降りて来られる方

そしてイエス様は十字架に付けられ、三日目によみがえりました。そして四十日後に、天に昇られました。初めにあった栄光に、父なる神のところにお上りになられたのです。そして今、神の右の座に着いておられます。私たちのために祭司として、執り成してくださっています。しかし、そこから立ち上がり、天から地上に戻って来られる時が来ます。「使 3:20-21 そうして、主の御前から回復の時に来て、あなたがたのためにあらかじめキリストとして定められていたイエスを、主は遣わしてください。このイエスは、神が昔からその聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物が改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。」

2A 二つの来臨

私たちは、キリストの二度の来臨、到来の間に生きています。キリストが初めに来られて、私たちを愛し、血を流して、ご自身を献げてくださいました。そして、主は間もなく戻って来られます。

1B 苦しみの後の栄光

主が来られた時は、へりくだった姿で来られました。ベツレヘムの町で貧しいヨセフの家で生まれました。飼い葉おけの中に置かれました。そして、私たちの罪のゆえに、十字架の道を歩まれ、苦しみました。けれども、次に来られる時は、栄光の姿で現れてくださいます。

同じように、キリストのうちにある者も、キリストにあって死んだ者です。罪に対して死んでいます。自分に対して死に、そのことでキリストに生きていただきます。そして、キリストが十字架の死に至るまで仕えられ、それゆえ神がよみがえらせ、天に引き上げられたように、私たちもまた、キリストが現れた時に、天に引き上げられ、栄光の姿に変えられます。「コロ 3:3-4 あなたがたはすでに死んでいて、あなたがたのいのちは、キリストとともに神のうちに隠されているのです。あなたがたのいのちであるキリストが現れると、そのときあなたがたも、キリストとともに栄光のうちに現れます。」

私たちは狭間に生きている者たちです。主が初めに来られた時と、再び来られる時の狭間に生きています。主が、再び来られる時まで、主が地上を歩まれた道に倣っていくものです。私たちは

すでに、信仰によって神から生まれ、神の子どもとなっています。神の相続人となっています。神の持っているものを全て、キリストにあって受け継いでいます。けれども、それが目に見える形に現れるのは、主が再び来られた時です。それまでは、忍耐して生きるのです。そこで、試練が来ます。苦しみが来ます。迫害もあるでしょう。しかし、それがむしろ、自分の信仰が練り清められて、主が再び来られる時は、栄光の姿に変えられるのです。

ヤコブの息子ヨセフのことを思い出してください。彼は、ヤコブの寵愛を受けました。それで兄たちが彼を妬みました。しかしヨセフは、自分に対して兄たちがひれ伏し、なんと、父や母までが兄たちと共に彼の前にひれ伏す夢を見たのです。それで兄たちが憎しみ、彼をエジプトに売ったのです。しかしヨセフには、主が共におられました。主人の家で仕えました。ところが、そこで主人の妻に言い寄られ、彼が逃げると、彼は偽りの告発で牢に入れられました。しかし、そこでも主が共におられました。彼は監獄の長に気に入られ、そこでも囚人の世話をする者となりました。このようにして、ヨセフは練り清められたのです。

そしてついに、ヨセフはエジプトの王ファラオの前に行き、そこでファラオが見た夢を説き明かして、初めの七年間の豊作とその後続く七年間の飢饉に対して備えよという助言を与えました。それでファラオが、自分の次の権力を彼に与えたのです。栄光の座に着いたのです。そうやって、エジプトを治めることになりました。そして、カナン之地から兄たちが食糧を求めてエジプトにやってきます。ヨセフは担当官になっていました。兄たちはひれ伏しました。ヨセフの見た夢の通りになったのです。このように、ヨセフは夢の中で栄光の座に着く約束をされていましたが、それが実現するまでは苦しみを経たのです。これはキリストご自身の道を示しており、私たちもこの道を歩んでいるのです。

私たちはすでに恵みによって神の子どもです。それは神という王の息子たちです。イエス様は、ペテロに余裕を見せておられました。ペテロの家に、神殿税の集金に人が来ました。家には、そのお金がなかったのです！それだけ、金欠だったのです。ところがイエス様はペテロにこう聞かれます。「マタ 17:25 シモン、あなたはどう思いますか。地上の王たちはだれから税や貢ぎ物を取りますか。自分の子たちからですか、それとも、ほかの人たちからですか。」ペテロが、「17:26 ほかの人たちからです。」と答えると、イエス様は、「ですから、子たちにはその義務がないのです。」と言われます！余裕をかましておられたのです。けれども、私たちと違って、本当に余裕があったのです。ペテロに魚を釣らせて、その魚が銀貨一枚を加えているので、それで納めさせています。

ですから、すでに神の子どもであっても、今は、その栄光に目に見える形であずかっていません。むしろ、それとは裏腹に、試練や苦しみがやってきます。しかし、その試練や苦しみがさえが、後の栄光のための備えとして用いられるのです。そのことをパウロは、ロマ 5 章でじっくりとお語りになります。「ロマ 5:2-4 このキリストによって私たちは、信仰によって、今立っているこの恵みに導

き入れられました。そして、神の栄光にあずかる望みを喜んでいます。それだけではなく、苦難さえも喜んでいます。それは、苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。」信仰によって、キリストにある恵みにあずかりました。そして、神の栄光にあずかる望みを喜んでいるのです。ところが、その過程で苦難も受けます。けれども、その苦難さえも喜びの理由なのです。それは、その苦難によって自分の品性が練り清められ、結局は、希望を生み出すからです。主のすばらしさにあずかれる望みです。

2B 霊と体の救い

次に、私たちの霊的状态について考えてみましょう。霊的状态についても、キリストの二つの来臨の狭間に私たちは生きています。ロマ 8 章によると、私たちは「うめいている」と教えています。初めに来られたキリストの働きによって、私たちの霊が救われました。私たちの霊は、神の思いと調和して、神に仕えています。けれども、からだはまだ贖われていません。アダムが罪を犯してから、その体が衰え、死に絶えたように、私たちのからだも衰えて死にます。何よりも、私たちのからだには、罪がまだ宿っており、キリスト者になってから葛藤が始まるのです。新しくされた霊が、これまでは当たり前に行っていた肉に対して戦いを挑むからです。肉に対しては、御霊によって殺していくのです。御霊に満たされて、肉の思いを満たさないようにします。ですから、その葛藤の中で、また肉体の弱さの中で私たちはうめいているのです。

けれども、そのからだは、主が再び来られる時に贖われます。けれども、救いは、霊魂だけではありません。からだのよみがえりもあり、それで救いが初めて完成するのです。バプテスマのことを説明しているパウロは、霊が新しくされるだけでなく、からだの復活も約束されていることを話しました。「ロマ 6:4-5 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。」私たちは今、新しい霊的ないのちを受けて、そのうちに歩んでいます。それだけでなく、キリストがからだをもって復活されたように、私たちも新しいからだをもって復活するのです。

そして、復活は主が再び来られる時に起こります。「Iテサ 4:17 すなわち、号令と御使いのかしらの声と神のラツパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられ、空中で主と会うのです。こうして私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。」

4B 御霊の初穂と収穫

そして、御霊の働きについてですが、今、話したように、御霊は私たちの内で働かれます。霊を一新させてくださいました。そして、からだも主が再び来られる時に贖ってくださいます。その時

に御霊は、人間だけでなく、世界全体を贖い、一新する働きをされます。「ロマ 8:21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。」神の子どもとは、栄光のからだをもったキリストを信じる者たちです。この神の子らが現れると、被造物全体も、今は束縛されているけれども、解放されて、神の子どもたちと同じ栄光の自由にあずかれるのです。

このことを想像するのは、アダムが初めに造られた時のことを思い出すとよいのです。神の創造は、人の創造によって完成されました。人の創造は他のすべてのものを造られた後に、起こりました。なぜか？それは、ご自分のかたちとして造られたものであり、ご自身が万物を支配しておられるのと同じように、人に被造物を支配するように任せられたのです。ある動画を見ましたが、若い青年が、何十頭もわにが飼育されているところに、大量の肉が入っているバケツを運んで、長くつだけに入って、餌を与えていました。幼い時からやっているので、ワニと信頼関係があります。ちょうどこのようなものですね、人が支配し、それによって被造物がその支配の中で自由にされていません。けれども、万物のかしらとして造られたアダムが、悪魔の惑わしによってご自身から離れてしまいました。そして、支配下にあった被造物も、巻き添えを食らったのです。地は呪われたものとなりました。

それで、主はご自分に似せて造られた人を、御子にあつて奪還するように定められたのです。彼らをまず、ご自分のものとして奪還し、それから他の被造物を奪還して、そして元の状態に回復させようと意図されています。

このことについて、ロマ 8 章では、私たちを「初穂」とパウロが表現しています。「8:23 それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだ贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。」なぜ、初穂と呼ばれているのか？それは、その後に続く収穫があるからです。レビ記には、初穂の祭りがありますが、それは麦の収穫の初めのものを主に献げることです。そのことによって、その後の収穫はすべて約束され、保障されていることを意味しています。

私たちは、信じて主が聖霊をくださいます。聖霊が、私たちにキリストの愛を知らせます。この方にある、言葉に言い尽くせない喜びで満たしてください。理解を超えたところの平安を与えてください。そして御霊の賜物によって、多くの主に対する働きをすることができます。けれども、これらはみなすべて、将来の神の国にある至福の、ごく一部の前味なのです。そのごく一部を今、私たちが味わっています。今、礼拝を献げているのは、天にある栄光の豊かさを、御霊によって前もって味わっていると言ってよいでしょう。今、御霊の豊かさに圧倒されることがありますが、御国が来たら、それどころではありません。筆舌に尽くしがたい、とてつもない栄光が待っています。至福です。今の御霊の働きは、将来、御霊が行われる収穫の初穂に過ぎないのです。

3A 大いなる神、救い主

そして、その祝福に満ちた望みとは、「すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れ」であることに注目してください。天がすばらしいところ、主が地上に到来した後の世界はすばらしいところに間違いないのですが、私たちにとっての望みは、主イエスご自身なのだ！ということです。この方ご自身が、私たちにとっての祝福に満ちた望みなのです。

モーセは、荒野において天幕の中で、主と語り合いました。その親密な語り合いの中で、彼は、最も自分の中に隠していた、願いを言い表しました。「出エ 33:18 どうか、あなたの栄光を見せてください。」というものです。彼にとっての栄光は、紅海が分かれることではありませんでした。そのような奇跡や不思議が起こることではなかったのです。主ご自身の栄光です。それで主は、彼にご自身が通り過ぎたあとの、後姿をお見せになりました。そのまま見たら、モーセがその栄光の輝きでたちまち滅んでしまうからです。そして、ご自分の名を宣言されました。神の御名にこそ、神ご自身の栄光が現れているからです。「出 34:6-7 【主】は彼の前を通り過ぎるとき、こう宣言された。【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神。怒るのに遅く、恵みとまことに富み、恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子に、さらに子の子に、三代、四代に報いる者である。」

1B 父と一つの御座

ここで、パウロが、「大いなる神であり私たちの救い主」と言っていることに注目してください。これは正しい訳です。大いなる神と、私たちの救い主イエス・キリストと言っていないのです。つまり、救い主イエス・キリストが大いなる神であるということです。ここまではっきりと、キリストが神であることを宣言しています。

イエス様は、再臨される時に、事実、ご自身が神であり、父なる神と一つであることを、明らかに現わされます。黙示録で、神がこのように宣言されています。「黙 1:8 神である主、今おられ、昔おられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」そして、主イエスがヨハネに栄光の姿で現れました。ヨハネにこう語られます。「1:17 恐れることはない。わたしは初めであり、終わりである。」アルファとオメガとは、ギリシア語のアルファベットの最初と、最後です。つまり、初めと終わりです。全く同じ宣言で、ご自身を宣言しておられます。

そして、天のエルサレムには、神の御座があります。「黙 22:1-2a 御使いはまた、水晶のように輝く、いのちの水の川を私に見せた。川は神と子羊の御座から出て、都の大通りの中央を流れていた。」いのちの川は、神と子羊の御座から出ています。ここの「御座」ですが、複数になっていません。単数なのです。一つの御座なのです。神と子羊キリストですから、二つの王座がなければいけないのに、一つでしか語られていないのです。父と子が一つになっている姿なのです。

2B 神ご自身の栄光

イエス様が事実そうであるよう、神ご自身の栄光の輝きであり、その本質の完全な現れであるように、主は再び戻って来てくださいます。

4A 待ち望み

そして、「**待ち望むように教えています**」とあります。これが、あたかも、ただ待って、何もしないで見なしているかのように見なしてはいけません。ここの元々の言葉、ギリシア語は、非常に能動的に待っている意味を持っています。ある人がこう言いました。「しっかりとしたウェイターほど、良く働いている。」ウェイターというのは、英語で「待っている人」という意味なのです。注文が入ったら、料理人から受け取ったものを、お客様のところにきちんと運んでいくのが、ウェイターですね。その注文を待っているの、ウェイター、待っている人と言われます。そして、お客様の呼びかけに速やかに応えるのも、有能なウェイターです。待っているのですが、能動的に待っているのです。能動的に待っている人は、非常に躍動的に動いているのです。

1B 労苦の報い

イエス様は、ご自身が来るのをしっかり待ち望んでいる人を、「忠実で賢いしもべ」と喩えられました。「マタ 24:45-46 ですから、主人によってその家のしもべたちの上に任命され、食事時に彼らに食事を与える、忠実で賢いしもべとはいっただれでしょう。主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見てもらえるしもべは幸いです。まことに、あなたがたに言います。主人はその人に自分の全財産を任せようになります。」主の来臨を期待して待っていることは、このように、信仰に忠実さを与えます。自分が誰に仕えているのかをはっきりさせます。誰かに何か言われたから、ではなく、主が何と言っておられるのかに神経を全集中しています。

そして、どんなにその働きが大変でも、報いがあることを知っているの、忍耐する力を与えてくれます。主が来られることを語った後で、パウロがこう言いました。「I コリ 15:58 ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っているのですから。」

2B 清め

そして、主が来られるのを待ち望んでいる人は、イエス様の栄光の姿を思い巡らしているの、この方が清いように、自分自身も清くしたいと願います。「I ヨハ 3:2-3 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。キリストにこの望みを置いている者はみな、キリストが清い方であるように、自分を清くします。」これが待ち望んでいる人の姿です。主に仕えることに熱心になり、そして、自分を清く保つことに十分に注意を払います。